

(二〇二五年度)

TEAPスコア利用方式

国語問題 (六〇分)

(この問題冊子は一八ページ、三問である。)

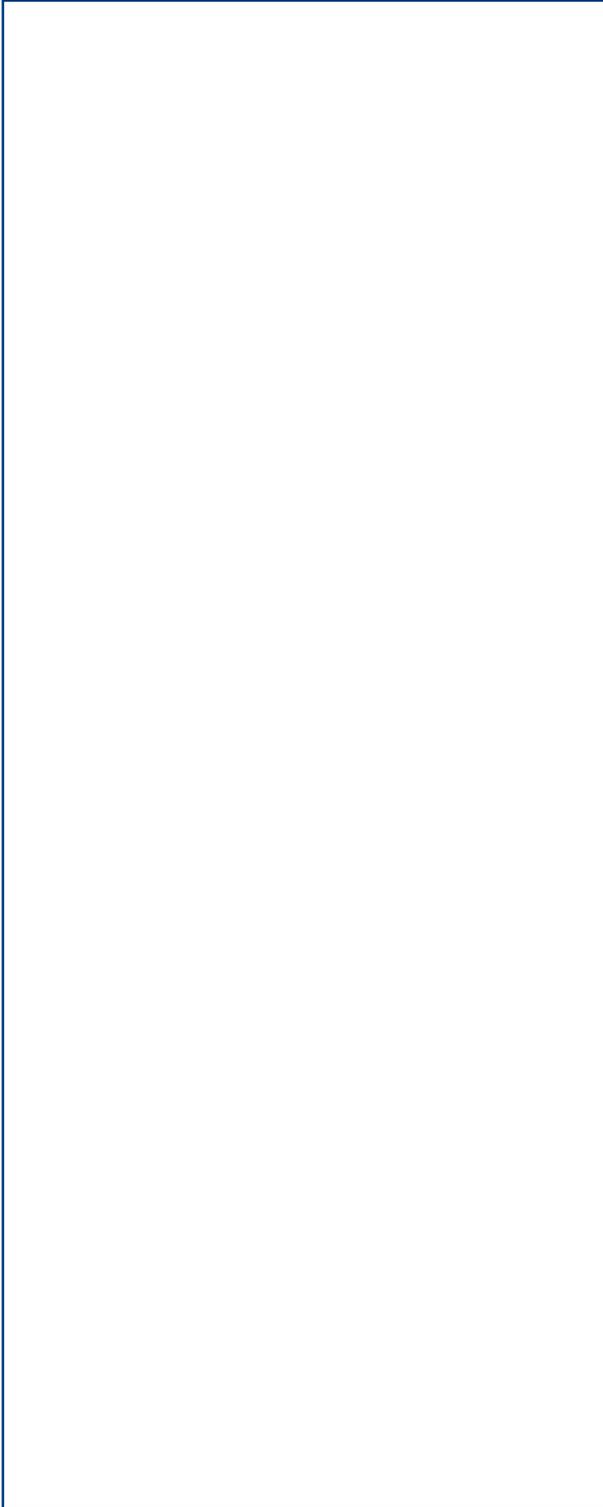
受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙一ページ目の左上に氏名と受験番号を記入し、所定のマーク欄をぬりつぶすこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能を使用してはならない。また、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一

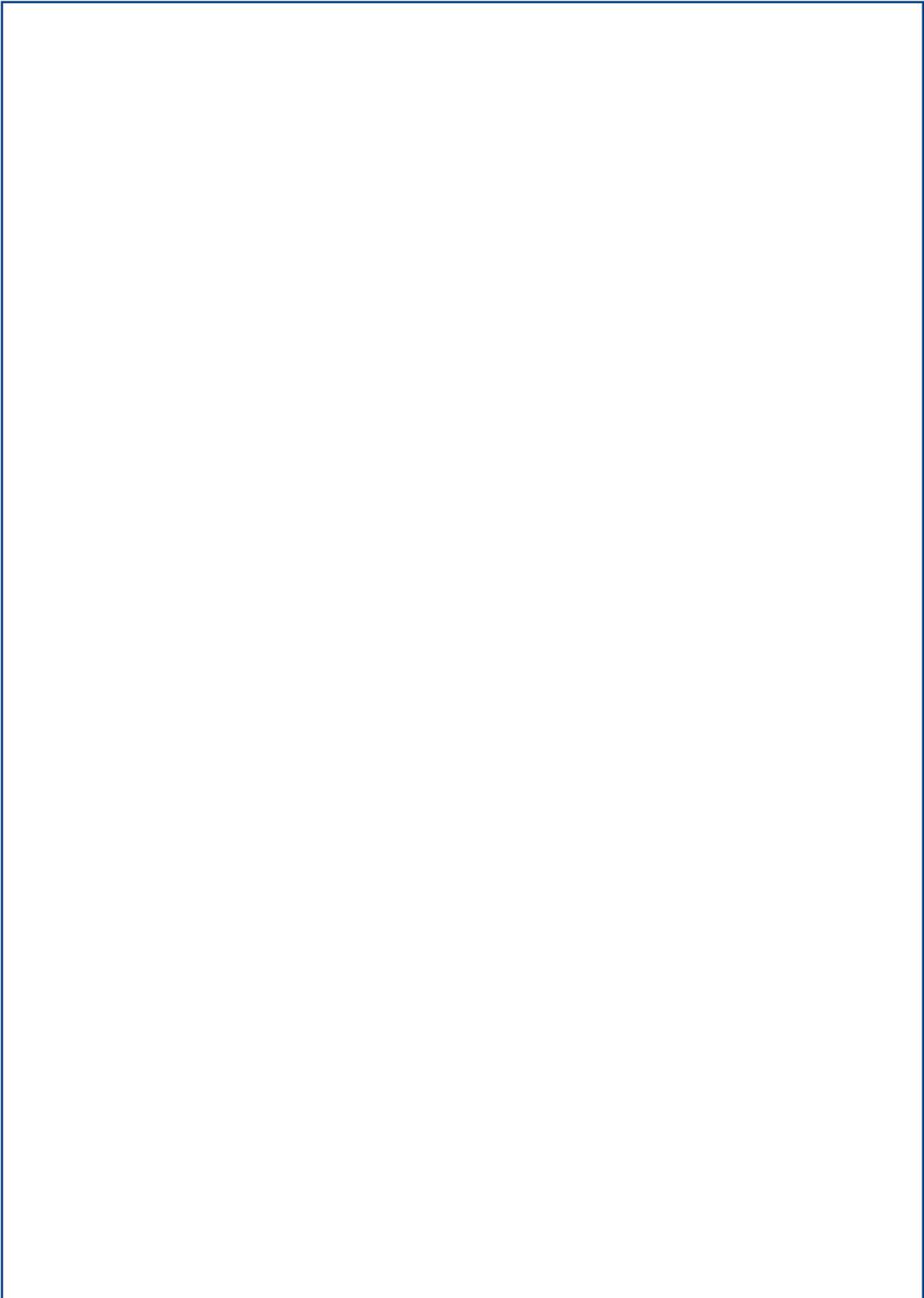
次の[A]および[B]は、安藤馨『大屋雄裕「法哲学と法哲学の対話」「権利と人権のあいだ」の一節である。[A]は大屋による「提題」から三箇所を抜粋したものである。[B]はこれに対する安藤による「応答」の一部である。これを読んで後の問に答えよ。なお、設問の関係上、一部の記述や注釈は省かれている。

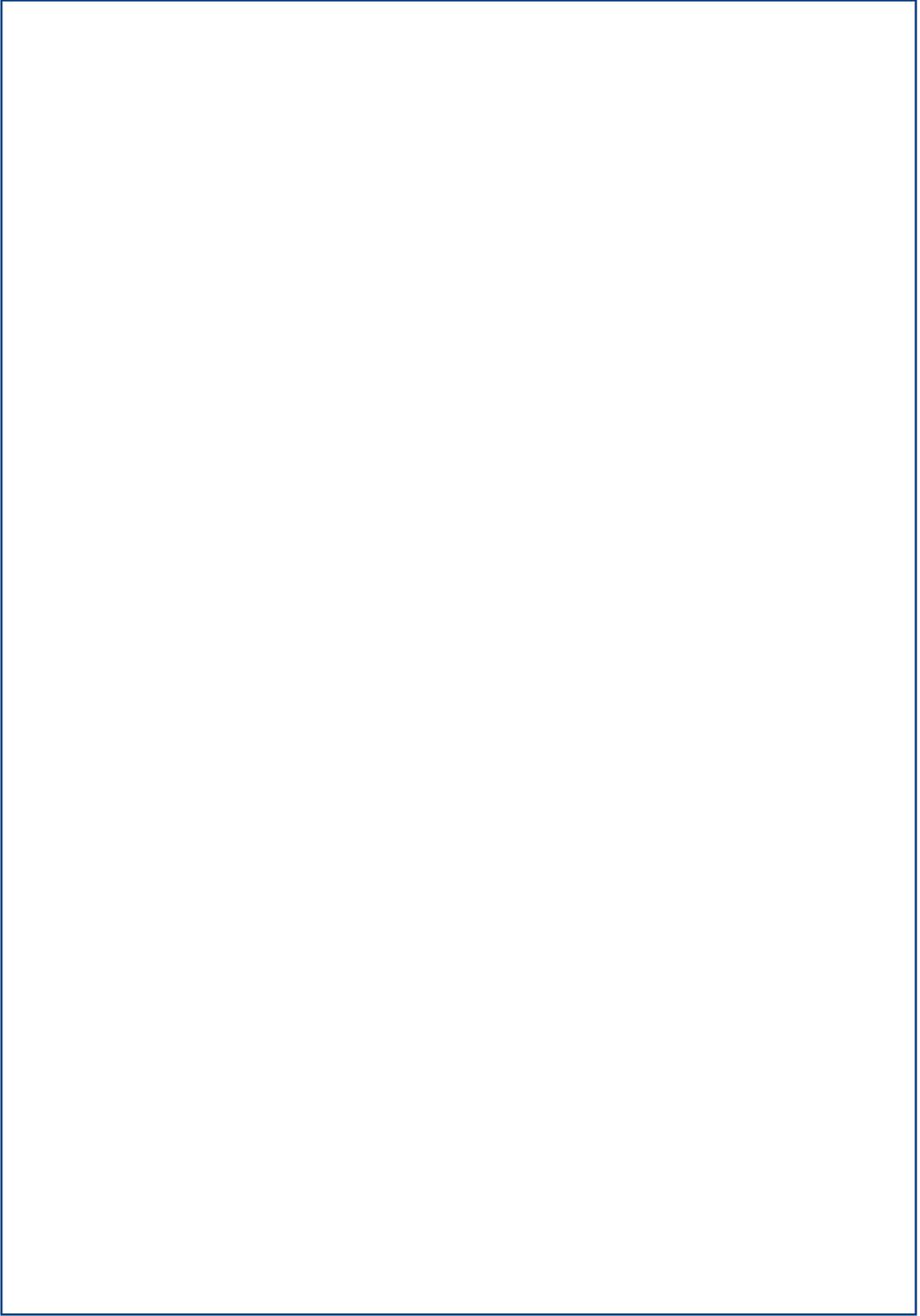
A



B







問一

A

の

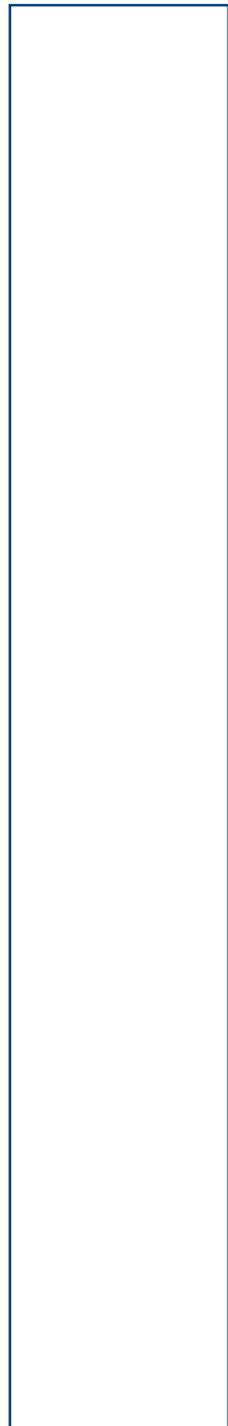
は何を問題としているか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

d c b a

問二
傍線部1

についての説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

d c b a



問三
傍線部2

を次の中から一つ選べ。

のはなぜか。もっとも適切なもの

d c b a



5

d	c	b	a
模ヨウ	服ヨウ	ヨウ怪	ヨウ領

4

d	c	b	a
案ガイ	災ガイ	弾ガイ	感ガイ

問五 傍線部4「ガイ」および傍線部5「ヨウ」を漢字で表記したときに、同じ字を含む熟語としてもっとも適切なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

問四 傍線部3

d	c	b	a

とあるが、それはなぜか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

問六
傍線部6

に関する説明として、ふさわしくないものを次の中から一つ選べ。

d c b a

--

問七
B

において

--

はどのように関連づけられているか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

d c b a

--

問八
B
の議論の内容に合致するものを次の中から一つ選べ。

d c b a

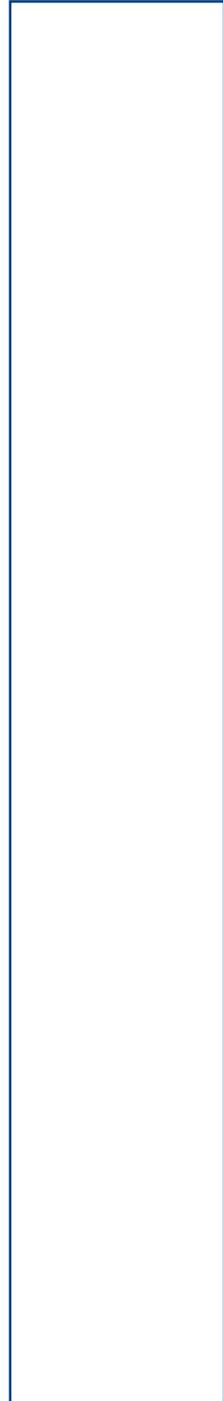
--

問九

d c b a

B

から推察される筆者の立場として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。



二

次のA・Bは『無名抄』の文章で、CはAに関連する作品である。これを読んで後の間に答えよ。

A

ある人いはいはく、「宮内卿有賢朝臣、時の殿上人七、八人相伴ひて、大和の国葛城の方へ遊びに行かれたることありけり。その時、ある所に、荒れたる堂の大ききやうやうしきが見えければ、あやしめて、その名を逢ふ人ごとに問ひけれど、知れる人もなかりけり。かかるあひだに、ことのほかに鬢白き翁一人まみえけり。『これはしもやうあらむ』とて、尋ねければ、『これをば豊浦の寺とぞ申す』といふ。人々『いみじきことなり』と、かへすがへす感じて、『さるにては、もしこの辺に榎葉井といふ井やある』と問ふ。『みなあせて、水も侍らねど、跡は今に侍り』とて、堂より西いくほどもさらぬほどに行きて教へければ、人々興に入りて、やがてそこに群れあひて、葛城といふ歌数十返唱ひて、この翁に衣ども脱ぎてかづけたりければ、覚えぬことにあひて、喜びかしこまりて去りにけり』とぞ。

(注1) 近く、土御門の内大臣家に、月ごとに影供せられけることの侍りし頃、忍びて御幸などのなる時も侍りき。その会に、「古寺月」といふ題に詠みてたてまつりし、

X
ふりにける豊浦の寺の榎葉井になほ白玉を残す月影

(注4) 五条三位入道これを聞きて、「やさしくもつかうまつれるかな。入道がしかるべからむ時取り出でむと思ひ給へつること
(注5) を、かなしく先ぜられにたり」とて、しきりに感ぜられ侍りき。このこと、催馬楽の言葉なれば、誰も知りたれど、これより先には歌に詠めること見えず。そののちこそ、冷泉の中將定家の歌に詠まれて侍りしか。

(『無名抄』)

B

ある人いはいはく、「田上(注6)の下に、曾束(注7)といふ所あり。そこに猿丸大夫が墓あり。庄の境にて、そのの券(注7)に書き載せたれば、皆人知れり」。

また、「志賀の郡に、大道より少し入りて山際に、黒主の明神と申す神います。これは昔の黒主が神になれるなり」。
また、「御室戸みむろどの奥に二十余丁ばかり山中へ入りて、宇治山の喜撰が住みける跡あり。家はなけれど、堂の礎など定かにあり。これらかならず尋ねて見るべきなり」。
〔無名抄〕

C

葛城の 寺の前なるや 豊浦の寺の 西なるや 榎の葉井に 白壁沈しらたましつくや 真白壁沈まくや おしとと とおしとと
しかししてば 国ぞ栄えむや 我家わいへらぞ 富せむとみや おおしとと としとんと おおしとんと としとんと
〔催馬楽〕

〔注〕 (1)葛城といふ歌：催馬楽「葛城」。(2)土御門の内大臣：源通親みちちか。

(3)影供：柿本人麻呂の像を掲げて行う歌会や歌合のこと。(4)五条三位入道：藤原俊成。

(5)催馬楽：民間で歌われていた歌謡が雅楽の中に取り入れられて宮廷歌謡となった歌。(6)庄：荘園。

(7)券：土地の所有証明書。(8)おしとと とおしとと：囃子詞はやしことば。

(9)おおしとと としとんと おおしとんと としとんと：囃子詞。

問一 傍線部1「荒れたる堂の大きにやうやうしきが見えけれ」とはどういうことか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 大きな荒れた堂がはるか遠くに見えたということ。
- b 何かわけがありそうな大きな荒れた堂が見えたということ。
- c 大きく傾いて倒れそうな荒れた堂が見えたということ。
- d 豪華に装飾された堂が荒れているのが見えたということ。

問二 傍線部2「人々『いみじきことなり』と、かへすがへす感じて」とあるが、人々はどう思ったのか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 人々は翁が寺の名称を知っていたことに「珍しい人もいるものだ」と繰り返し感心した。
- b 人々は翁の答えた寺の名称を聞いて「とても悲しいことだ」といつまでも感傷にふけた。
- c 人々は豊浦の寺を見ることができて「とてもすばらしいことだ」と重ね重ね感動した。
- d 人々は豊浦の寺が荒廃しているのを見て「とても残念なことだ」と何度も嘆いた。

問三 傍線部3「喜びかしまりて去りにけり」とあるが、なぜ翁は喜んだのか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 貴族たちは、榎葉井に集まり歌を歌いながら祈っていたが、寒さに震える自分にも着物を着せてくれたから。
- b 貴族たちに、寺の名称を聞かれ、近くの榎葉井を案内しただけであるのに、褒美をもらうことができたから。
- c 貴族たちが、榎葉井に集まって服を脱いで歌い踊り出したが、自分も誘われて参加することができたから。
- d 貴族たちに、寺の名称を明かした上に、隠された榎葉井を秘密裏に案内したことが、褒美によって評価されたから。

問四 傍線部4「詠みてたてまつりし」とあるが、ここで用いられている敬語の敬意の対象となっているのは誰か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 上皇
- b 天皇
- c 内大臣
- d 入道

問五 傍線部5「やさしくも」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 恥ずかしくも
- b みつともなくも
- c ひかえめにも
- d 優美にも

問六 傍線部6「取り出でむと思ひ給へつることを」の現代語訳として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 取り出そうとお思いになつていたことを
- b 取り出すだろうと思われていたことを
- c 取り出すだろうと拝察していたことを
- d 取り出そうと存じておりましたことを

問七 傍線部Xの和歌とCの作品との関係を説明したものととして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a Cは、Xよりも後に作られたもので、榎葉井の白玉を歌うことはXと共通するが、「白壁沈くや 真白壁沈くや」と繰り返す、その美を強調することで、国家の繁栄を祈る歌とした。

b Cは、Xよりも後に作られたもので、古くなった豊浦の寺を歌うことはXと共通するが、「白壁沈くや 真白壁沈くや」と繰り返す、その没落したさびしさを強調している。

c Xは、Cよりも後に作られたもので、「なほ白玉を残す月影」は、Cで歌われた「白壁」が今もなお残っているかのよう、月の光が照らしていることを詠んだものである。

d Xは、Cよりも後に作られたもので、「ふりにける」は、Cで歌われた豊浦の寺が今はもうなくなってしまった空しさを表し、月の光だけが変わらずに照っていることを詠んだものである。

問八 AとBに共通する作者の考えを説明したものととして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 古い歌に詠まれた場所や、昔の著名な歌人たちの旧跡を訪問することは、歌人にとって重要なことである。

b 古い寺院や神社は、荒れているとしても、必ず何かの由緒があるものだから、尋ねて調べることが重要である。

c すでに忘れ去られた古い歌人たちや名所について、その旧跡を訪問することによって再評価しなければならない。

d 山深くにあつて知られていない旧跡を訪れる際には、案内をしてくれる人がいなければ到達することは困難である。

問九 『無名抄』の作者と生年がもっとも近い人物を次の中から一つ選べ。

a 紀貫之 b 兼好法師 c 寂蓮 d 世阿弥

三

次の文章を読んで後の問に答えよ。ただし、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

老氏^ハ以^テ無^ク為^ル宗^ト、^(注1) 仏氏^ハ以^テ空^ヲ為^ス宗^ト。² 以^テ未^ダ有^ラ天地之先^ニ、為^ル吾真^ニ体^ト、以^テ
 天地万物^ヲ、都^テ為^ス幻化^ト。³ 人事^ヲ都^テ為^ス粗迹^ト、^(注2) 尽^ス欲^ヲ屏除^シ了^ス。⁴ 一^ニ帰^ス真^ニ空^ト、
 乃^チ為^シ得^ル道^ヲ、不^レ知^ラ道^ヲ只是^ニ人事之理^ナ耳^ヲ。⁴ 形而上者^ヲ、謂^フ之^ヲ道^ト、
 形而下者^ヲ、謂^フ之^ヲ器^ト。⁵ 自^リ有^ル形而上者^ヲ言^フ之^ヲ、其^ノ隱^シ然^ト不^レ可^レ見^ル者^ヲ、則^チ謂^フ
 之^ヲ道^ト。自^リ有^ル形而下者^ヲ言^フ之^ヲ、其^ノ顯^シ然^ト可^レ見^ル者^ヲ、則^チ謂^フ之^ヲ器^ト。其^ノ實^ハ道^ハ不^レ
 離^レ乎^ニ器^ヲ、道^ハ只是^ニ器之理^ナ。⁶ 人事^ヲ有^ル形^ノ状^ノ處^ニ、都^テ謂^フ之^ヲ器^ト。人事^ノ中^ノ之^ノ理^ハ、
 便是^ニ道^ヲ、道^ハ無^ク形^ノ状^ノ可^レ見^ル。^(注3) 明道^ハ曰^ク、道^ハ亦^ハ器^也、器^ハ亦^ハ道^也。

(陳淳『北溪先生性理字義』)

(注) (1) 仏氏…仏門の人。(2) 屏除了…取り除いてしまう。(3) 明道…北宋の学者程顥。

問一 傍線部1「老氏」と同じような思想傾向を有する人物として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 韓非
- b 荀況
- c 曾参
- d 莊周

問二 傍線部2「以未有^レ吾真体」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 天地すら存在しないところに物事を見ようとする。
- b 世界ができる以前を問題とすることに本質がある。
- c 天地が始まって以来のことをまず検討対象とする。
- d 存在し得ないと思われる空間を最初に疑問視する。

問三 傍線部3「人事都為粗迹」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 人の一生は夢まぼろしのようにはかない。
- b 人の出世や失敗はあらかじめわからない。
- c 人が行うことはいい加減なものばかりだ。
- d 人が問題とすることはつまらないものだ。

問四 傍線部4「形而上者」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 事象の大本にさかのぼる根源的なもの。
- b 物事の法則として目には見えないもの。
- c 形体よりも確固たる存在感を示すもの。
- d 物体のもつ質料をこえた本質的なもの。

問五 傍線部5「器」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 形体のある具体的なもの。
- b 使い道のある的確なもの。
- c 道具のように有用なもの。
- d 物を許容する寛大なもの。

問六 傍線部6「道只是器之理」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 道とは器を生み出す原理のことをいうのである。
- b 器の形状を追究することで原理を知るのである。
- c 器を成り立たせる原理こそを道というのである。
- d 器が道を離れて存在し得ないという原理がある。

問七 本文が説明する「道」に合致するものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 道者徳之本也。
- b 道不_レ離_二乎_一物、離_レ物則無_三所謂_二道_一。
- c 以_レ道為_レ超_二乎_一天地器形之外_一。
- d 道者万物之始。

問八 次の選択肢のうち、本文の内容と合致するものを二つ選べ。

- a 仏教においては、すべてが空と知ることによって道を理解したことになる。
- b 目に見えるものを道といい、目に見えぬものを理というのである。
- c 道は人の世におけるさまざまなる事象を成り立たせるものである。
- d 器と道とは、別個に異なるものとして存在する。
- e 明道の言葉は本文の内容の反証として引用されている。
- f 老氏は何も無いところには道すら存在し得ないと主張した。

